

さつまいも規格外について。

今週と来週の2週間に渡り1度だけ、茨城BMの「さつまいも規格外」をお届けします。さつまいもは例年、春と秋の2回だけ皆さんにお届けしていますが、今回は<規格外>のお届けとなります。<規格外>は、通常のさつまいもと比べると1本が500g~900gと大きなものとなります。本来この規格外のさつまいもは、埼玉県にある某有名和菓子屋の「いも恋」という商品に使用されていますが、コロナ感染症による自粛の影響を受けて和菓子屋さんの営業が止まってしまった為に、行き場を失くしてしまいました。その量約40トン！生活クラブ関西の年間引き取り量が約20トンである事を考えるととてもつもない量である事が分かります。今回は、コロナの影響を受けた生産者を少しでも応援したいという事と、夏野菜の収穫が遅れている事でお届けできる野菜が極端に少ない状況でもある事から1度だけお届けする事としました。ご理解下さい。

規格外は、通常品と比べると「大きい」「形が悪い」等の特徴がありますが、味や触感等は通常品と変わりません。むしろ味は大きなものの方が良い傾向があります。少し使いづらい所はありますが、その大きさを活かした調理も楽しんで下さい。(焼き芋、天ぷら、さつまチップ、さつまスティック、味噌汁、芋ご飯、等々)

※黒い汁が表面に付いている事がありますが、デンプンが固まったもので芋ヤニと呼ばれています。デンプンは糖化すると甘くなる事から、「芋ヤニ」= 美味しい芋の証となります。

※先が傷んでいる場合、その部分をカットしています。
※凹みが大きくても品質に問題なければお届けします。

~~ 生産者紹介 ~~ 茨城BM 米川さん

(2018年秋の再掲載)

例年、春と秋にお届けしている「さつまいも」は、茨城BMの米川さんが作っています。今年の6月に畑を訪問しました。

米川さんに無農薬のさつまいも栽培で一番しんどい作業は何かと聞いてみた所「そりゃ、除草作業だっぺ。一人でやってっから。今日も10km以上は歩いてるよ。」と真っ黒に日焼けした笑顔で答えてくれました。

「待ってくれてる組合員さんがいるからできるんだ！」とも。

米川さんの畑は6ヘクタール(甲子園球場の約1.6倍)あり、今年は約15万本の苗を植えたそうです。さつまいもを植えた畝と畝の間に生えた草を刈る為に、管理機(除草機)を押しながら歩きます。全ての除草が終わるのに1週間かかります。しかし終わった頃には、最初に除草した場所にまた草が生え始めています。特に6月は草の勢いが強いので、この除草作業を全ての畑で4回づつ行うそうです。管理機を押しながら歩く距離は1日10km以上、万歩計は3万歩を超えています。米川さんは今年で70歳。本当に頭が下がります。

一般のさつまいも作りでは、除草剤を1回まけば終了。労働力に歴然の差があります。無農薬のさつまいもが一般でほとんど流通していない理由がここにあります。

帰り際、振り返って見た畑に管理機を押し歩いた足跡が永遠と続いている光景が印象的でした。



やさいBOXは、「栽培期間中は化学合成農薬、化学肥料は不使用で作られた野菜」のおまかせセットです。産地の旬に合わせた野菜をお届けしています。